

## Jパワー、藻から燃料油 一貫生産でCO2排出実質ゼロに

2016/2/9 12:47 | 日本経済新聞 電子版

Jパワーは北九州市に藻から燃料油を生産する実証設備を設け、5月をめどに稼働させる。藻の培養から油の抽出まで効率的に一貫生産することで、油を製造するときの二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)排出量を実質ゼロに抑える。抽出した油は成分を分析し、飛行機のジェット燃料の原料として使えるか検証していく。

同社は藻の培養池がある若松研究所(北九州市)に藻を回収して濃縮し、油を分離する設備を建設している。培養池と抽出設備をポンプなどでつなぎ、油を一貫生産する計画。まず1日あたり4リットル程度を製造する。藻から油を抽出する研究はユーベレナやIHIなども進めているが、一貫生産する設備は国内初という。

Jパワーは油の抽出に重油を改質して軽油にする既存技術を活用するなどして量産に向けてコスト低減に取り組む。2030年に1リットルあたり500円程度での生産を目指す。

国際民間航空機関(ICAO)は国際線の運航で発生するCO<sub>2</sub>を20年以降に増やさない目標を掲げている。藻は成長段階でCO<sub>2</sub>を吸収するため、燃料として燃やしても実質的にCO<sub>2</sub>排出量がゼロとみなされる。まだ石油由来のジェット燃料より10倍程度高いとされるが、藻から抽出したジェット燃料の実用化が期待されている。



Copyright © 2016 Nikkei Inc. All rights reserved.

本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は、日本経済新聞社またはその情報提供者に帰属します。また、本サービスに掲載の記事・写真等の無断複製・転載を禁じます。